

社長メッセージ

持続可能な社会の実現をめざし、 技術と対話で価値を創造します

平素よりご支援いただいております株式会社日立国際電気の成膜プロセス・ソリューション事業ですが、このほど同社から独立し、株式会社 KOKUSAI ELECTRIC（以下「当社」）として新たなスタートを切りました。この節目に当たりご挨拶申し上げますとともに、持続可能な社会の実現に貢献する当社グループの価値創造戦略とその進展についてお伝えし、意義ある対話を深めるきっかけとなるよう、この報告書を発刊します。

2017年度の経済動向は、米国および国内で、個人消費や設備投資などを中心に経済が堅調に推移したほか、中国ではインフラ投資や個人消費の増加による安定した経済成長、欧州では、ドイツを中心とする景気の拡大基調もあり、世界経済全体で緩やかな景気拡大が続きました。

このような状況のもと、半導体関連の事業環境は、IoT（Internet of Things）社会の浸透、データセンター需要の増大や電子機器の多様化によるメモリー市場の拡大、次世代通信規格の登場、AI・自動運転・通貨マイニング等の加速により半導体全体の需要が拡大し、これに伴い半導体製造装置も活況を迎え、当社は売上を伸ばすことができました。

当社グループの今後の事業環境は、世界経済全体として緩やかな景気拡大基調が持続すると見込まれ、英国のEU離脱交渉や世界各国の通商関係の動向など、不透明な状況が残るものの、半導体市場の伸長はさらに続くと思われ、またこれに伴い、半導体製造装置業界も新たな成長局面を迎えています。

このような事業環境のもと、当社は新生会社として、以下の施策を推進してまいります。

現在直面している大きな市場環境の変化、世界経済全体の拡大、それに伴う社会や地球環境の変化がもた

らす、お客様ニーズの進化と将来にわたる方向性を探求します。それにより、これまで以上に長期的な視点でお役に立てるソリューションを開発、提案する体制を整えます。お客様の事業の進展、業容の拡大に伴い、対応を期待される社会課題・環境課題が多様化し、事業上のリスクと機会のあり方も変化します。お客様との対話を何よりも重視し、これまで培ってきた成膜技術をコアとする先端技術と、スピーディーな事業オペレーションの展開により、市場に先回りする提案、高品質な製品、サービスの提供に努め、真の成膜リーディングカンパニーをめざします。

当社グループは、果たすべき役割を、企業理念において「安全・快適で活力ある、持続可能な社会の実現をめざし、技術と対話で価値を創造します」と定めました。お客様や、その先のお客様とともに高度化





するさまざまな電子機器の開発、進化に貢献することを通じ、この役割を果たすとともに、2015年9月に国連サミットで採択されたSDGs(持続可能な開発目標)の達成を視野に置き、2030年まで可能な限りこれに取り組むことが、当社グループの課題と考えます。

持続可能な社会の実現をめざす中長期視点から、国際的に認知された社会的責任に関するガイドラインであるISO26000をベースに、事業を推進する際の生産活動に伴う環境負荷の低減、人権の尊重や多様な人財の雇用・育成、法令遵守と清廉な企業文化の醸成を重要と考え、これらを当社の経営理念および行動基準の一部として表明し、全役員および従業員に周知しています。またそのための社内体制を整備しています。地域ごとのステークホルダーの皆様とも密接な対話を行い、持続可能な未来をめざす協創を進めます。

今まさに産声を上げた当社ですが、半導体製造装置の開発には1956年4月から携わり、わが国の半導体事業をリードしてまいりました。関係する皆様のご協力を得て厳しい半導体業界で役割を果たしてきた、先人・同僚の経験と誇りは当社グループの中に息づいています。急速に変化する事業環境の未来を見据え、このDNAを生かしつつ全く新たな視点からの発想で皆様との連携を考えます。より一層のご指導、ご支援をいただきたく、どうぞ末永くよろしくお願い申し上げます。

2018年7月31日

代表取締役社長

金井史幸

CONTENTS

社長メッセージ	1
KOKUSAI ELECTRICが重要と考えること	3
編集方針、コミュニケーション・ツール	4
会社概要、主要製品	5
主な開発、設計、生産拠点、グループネットワーク	6

特集 お客様との対話を通じた価値の創造

ものづくりを究めて、社会課題の解決に 有用な価値をお客様とともに創出します	7
--	---

社会性報告

品質へのこだわり	9
責任ある調達活動の推進	10
人権の尊重、基本と正道	11
コーポレート・ガバナンス	12
人財の尊重と育成	13
地域社会との共生	16

環境報告

環境マインド&グローバル環境経営	18
環境に配慮した工場とオフィス	20
環境にやさしい次世代製品	22